

Memorage: セルフィ(自分撮り写真)をその場で集約して、 記念写真をコラージュするサービス

中川原 真由子[†] 水野 汰一[†] 岡崎 博樹[‡] 上林憲行[†]
東京工科大学 メディア学部[†] 手仕事工房[‡]

1. はじめに

近年、スマートフォンや携帯電話の普及に伴い、日常的にカメラ撮影を行うことが多くなっている。友人や家族など、複数人で食事や旅行に行った際には、その瞬間の思い出を残そうと、記念撮影を行うことも多い。しかし、複数人で記念撮影を行う際、撮る手段として、メンバーの一人が撮影する、第三者に撮影を依頼するといった手段があるが、いずれも手間がかかり、すぐに撮影が完了することは少ない。

近年、英語で自分撮りを意味する「selfie」(セルフイ)という言葉が世界から注目されている。また、自分撮りを容易にする「セルフスティック」と呼ばれる商品も登場し、世界中で人気が高まっている。

本研究では、自分撮りを意味する「selfie」を活用し、手軽に複数人の集合記念写真の作成を行うスマートフォンアプリケーション「Memorage」の開発を行った。

2. サービス構想

2.1 サービスコンセプト

Memorage のサービスコンセプトは以下の2つである。

- いつでも、どこでも、誰とでも
同じ時を共有する友人と、場所と人数の制限なく、ユーザーの望む場所で、容易に複数人での集合記念撮影を行う体験価値をもたらす。
- 複数人で写真を生み出す一体感
ユーザー各々が撮影したい画を設定し、好きなタイミング撮影が可能となることで、ひとりひとりの表現したい画に対しての自由性が高まった。これにより、集合写真の可能性が拡大し、ユーザー同士が協同して1枚の写真を作り出す一体感という体験価値を提供する。

2.2 サービス内容と特色

Memorage は、自分撮りによって撮影した複数の写真を1枚のコラージュとして写真に収め、場所に制限なく、リアルタイムに写真を共有できるメモリアルサービスである。Memorage のサービス形態は、スマートフォンアプリケーションとし、スマートフォンに備わるカメラ機能と通信技術を用いる。図1はそのサービスイメージである。

Memorage の特色は以下の3つである。



図1

Memorage サービスイメージ図

- ユーザー各々が撮影する、新たな集合写真撮影の形態
Memorage は、一般的な集合写真の形態とは異なり、複数人のユーザーひとりひとりが、自分自身を撮影し、コラージュを用いて集合写真を作成する。このため、Memorage と従来の集合写真の違いは、同じ風景の1枚の写真の中に複数人を収めるのではなく、ユーザー各々が撮影、選択した写真をコラージュ写真として集約するという点であり、ユーザー各々の自由度が増加しているという点である。自身の撮影に加え、風景や料理といった人物が映っていない写真もコラージュ写真に収めることができるため、従来の1回きりの撮影という集合写真の概念を覆す、新しい集合写真撮影の可能性を提供する。
- ユーザー任意の撮影タイミング
Memorage では、撮影するタイミングをユーザー任意で撮影可能である。このため、従来の集合記念写真でグループメンバーの一人が目をつぶってしまったという場合や、ユーザーが撮影したいものに時間制約がある場合などに各々が好むタイミングで撮影できるため、気軽に撮影をし直すことが可能である。
- リアルタイム写真共有
Memorage ではユーザーが協同して集合写真を作成、及び、写真共有の一連の流れを一括して行う。これにより、従来では、撮影をカメラ機能、共有をLINEやFacebookといったサービスを併用していたが、Memorage では、撮影後、その場で写真を共有することで、写真の送り忘れ、事後送信の手間が解消できる可能である。撮影者の写真を送付する負担をなくし、全員が確実に写真を共有してもらえることが可能である。

2.2 ターゲットユーザー

Memorage のターゲットユーザーは、スマートフォンを

Memorage: A Commemorative Photo Service that Selfie Photo Aggregates on Collage at that moment

Mayuko NAKAGAWARA[†], Taichi MIZUNO[†],

Hiroki OKAZAKI[‡], Noriyuki KAMIBAYASHI[†]

[†]School of Media Science, Tokyo University of Technology

[‡]Teshigoto Lab.

積極的に利用する 10 代から 20 代の女性とした。

そうした理由は 2 点ある。1 つに、女性は撮影への興味関心が高いと考えられるからである。写真の活用方法・楽しみ方についてのアンケート調査¹⁾では、「直近 1 年間に写真を撮影した」人は 85.3%であり、特に女性の若年層ほど頻度が高いという傾向が見受けられた。2 つに、「直近 1 年間の写真撮影時に利用した機器」については、10 代、20 代は「スマートフォン(携帯電話以外)」が最も高く回答していることがわかった。以上のことから、写真撮影を行う頻度が高い若年層の女性をターゲットとした。

3 プロトタイプ

本研究の開発を行うに当たって、Monaca²⁾を利用し、プロトタイプの制作を行った。

図 2 は、サービス全体のイメージ図である。ユーザーは、Memorage を起動し、新規ユーザー登録(ユーザー登録が済んでいる場合はログイン)を行い、写真撮影を行う。その後、グループで一人代表者を選出し、〈代表者〉と〈それ以外〉のボタンをそれぞれタッチする。(図 3)代表者は、QR スキャンをアプリ内で呼び出し、それ以外のメンバーは QR コードをアプリ内で表示し、写真を共有したいメ



図 3 代表者選出ページ



図 4 複数枚表示の完成イメージ図

ンバー同士のマッチングを行う。すべての作業が完了すると、画面上に複数枚の写真を表示させる(図 4)。

4 考察

現在の Memorage では、各々が撮影した写真を 1 人のユーザーのスマートフォンに収集し、複数枚の写真を 1 枚の写真として収めることができた。

今後は、コラージュ写真の作成においては、更なる完成度向上のため、コラージュを行えるサービスの API やライブラリを用いて実装予定である。また、完成版では、写真をその場で直ちに共有するため、現在の手法と並行し、Bluetooth など近距離にいるユーザーと手軽に通信が行える技術の利用も検討中である。プロトタイプでは時間の制約があったことから技術面を優先し、ユーザーインターフェースにおいて注力できなかったため、完成版でさらにブラッシュアップする。

サービスの応用としては、今回は、その場にいる人同士で思い出を共有することを目的としたが、インターネットを経由すれば遠くにいる人とのコラージュ写真作成も可能になる。遠く離れた場所にいる人とも、同じ時間を共有したい人同士で利用できる状況も踏まえ、今後の開発の課題としていきたい。

5. おわりに

2014 年 11 月に開催された MashupAwards10³⁾において、Geek Girls 部門賞内の HTML5 や JavaScript などを使用した運営パートナーが指定する該当言語を使った作品を対象とした、運営パートナー部門で受賞した。

謝辞

本研究を進めるに辺り、サービスの企画開発に関するご助言をいただきました大学院の川島誠弘さん、その他関係者各位に御礼申し上げます。

参考文献

- 1) 自主企画アンケート結果 写真の活用方法・楽しみ方 <<http://www.myvoice.co.jp/biz/surveys/18615/>> 2014 年 12 月 14 日アクセス
- 2) Monaca - HTML5 モバイルアプリ開発プラットフォーム <<https://ja.monaca.io/>> 2015 年 1 月 6 日アクセス
- 3) MashupAwards10 <<http://mashupaward.jp/>> 2014 年 12 月 23 日アクセス

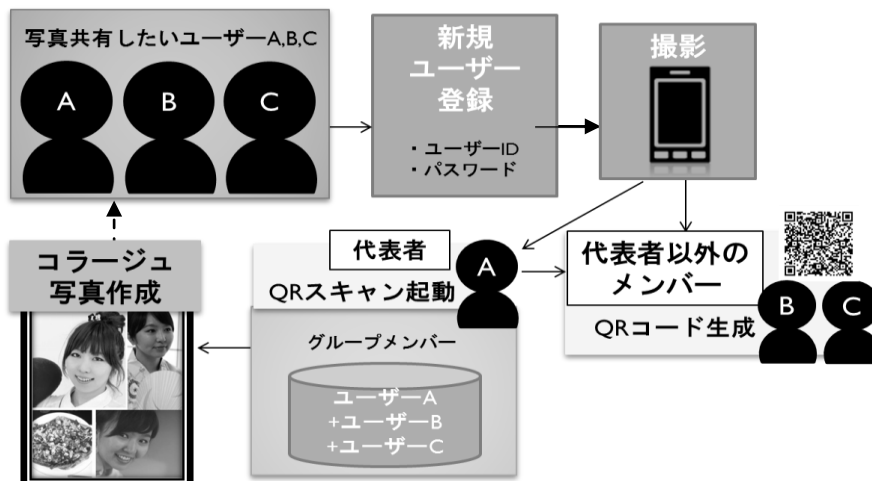


図 2 Memorage サービス構成図